

暖地

夏枯れのない飼料準備を

一 高乳価の夏の飼料を十分に

毎年夏季には牛乳が不足して高乳価を招いており、暖地のこの時期は暑さと、乾燥のために草の生育が悪く飼料不足となります。乳は搾りたし、飼はなし、更に暑さで、人も牛も弱る時期です。

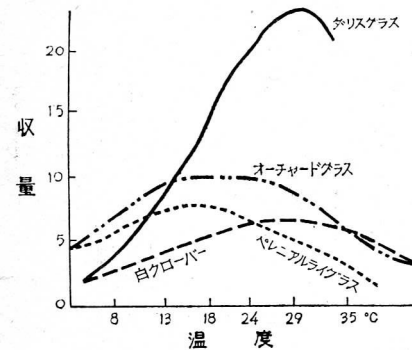
二 夏枯れ時の応急対策には耐暑性青刈作物で

耐暑性牧草地を十分に用意されている方は現況では少ないと思われませんが、そのような場合は早速間に合う青刈作物を作る準備しましょう。どんな作物があるかをみますと

- 玉蜀黍 (デントコーン、またはモロコシナンバ) 気温が二〇度から二五度ぐらいの牧草(ラデノクロバ、オーチャード等)の弱る時期に最もよく生育します。
- スーダングラス、ソルゴー いずれも南方型の作物ですから、わが国の夏の暑さにまけるような心配はなく、気温の高い時期程、また排水の良い土地を好むので多少の早刈にも弱らない再生力の旺盛な草で、夏の間に二〜三度の刈取りができます。
- テオシント 日本内地ではまず十分な種子がとれないといわれる程熱帯性の作物で、最も暑さを必要とする作物で、関東以西の暖地でなければ十分生育が期待できません。暑さに強いというよりも、暑さ、高温の必要な青刈作物です。西南暖地では夏の間に二〜三回刈取りが出来る葉の多い多収作物です。

● カウビー 飼料用のササゲ、カウビーは雨が少なく、炎天下大豆のしおれる時でもよく生育を続ける。暑さと早刈に強いまめ科作物です。

前記の玉蜀黍、スーダン、ソルゴー、テオシント等は何れもいね科作物ですから蛋白質の少ない欠点があります。その欠点を補うためにもカウビーの混ぜまきが有利です。混ぜまきの場合の播種量は次の通り。



三 恒久対策として耐暑性牧草で永年草地をつくること

従来の北方型牧草であるラデノクロバ、オーチャードグラス、ライグラス等だけの牧草地は一三〜二〇度の範囲が生育の適温とみられており、二五度以上にもなれば牧草の生育が非常に劣る時には病害や、雑草侵入も手伝って枯死全滅することもあります。ところが南方型の牧草、または北方型の牧草でも比較的暑さに強いものがありますから、これらを用いて夏枯れのない永年草地をつくることも必要でしょう。(※暑さに強い牧草下段参照)

今牧草の種類による生育と温度の関係を農研吉原潔氏の調査成績で示しますと次図のような大きな差があります。

暑さにも、日照りにも負けない牧草

— 夏がれ知らずの草 —

- ルーサン 根が深く伸び、しかも多く、よく夏に耐える最も良質の草を生産してくれる永年草。(品種は八及び十七頁参照)
- パーミューターグラス 地上茎地下茎でほとんど繁殖する強健ないね科永年草で、放牧地、芝地造成によい暑さ知らずの草です。
- バヒヤグラス 草丈二〇〜四五莖内外の根の深く伸びる永年草で他の草を圧倒してまん延するいね科永年草
- グリスグラス 草丈六〇〜一二〇莖の根の丈夫な永年性いね科牧草で、寒さにも比較的強い。
- パーツフット・トレフォイル ルーサン同様永年性のまめ科牧草、瘠地にもよく育ちます。
- プロームグラス 根が深く、葉が多く蛋白質の高い永年(スームズプローム)又は短年(マウンテン)草。
- スーダングラスの葉枯れ(スモモン病)に困っている方へ 一万貫牧草といわれる夏の青刈作物スーダングラスも葉枯病が出てはグット利用価値も収量も低下します。ところが、スイート種、テフト、パイパー等の品種は葉枯れが少なく、そのうえ葉も大きく、収量も多く、なる程一万貫牧草だわい」と喜ばれる優良品種です。
- ハイブリッド ソルゴーをお試し下さい 各地で試作した結果、収量多く、病害も少なく好評でした。これは耐病性や、多収性を考慮した一代交配ですから当然そうあるべきです。
- 飼料用のササゲ カウビーの優良品種はブラック・アイ カウビーの品種は随分沢山ありますが、青刈用としては、ブラック・アイが最高です。